経営協議会学外委員からのご意見に対する取組状況(経営協議会)

令和4年度

議題名	学外委員からのご意見等	ご意見を頂いた経営協議会	取　組　状　況
【審議事項】 第4期中期目標・中期計画（素案）について	○　共通テストの数学に見られるような読解問題を中心とした問題形式の傾向は今後も続くと考えられる。その中でどのように入学志願者を確保するか対策を検討していく必要がある。 ○　山口県の女子の大学進学率が全国的に見ても低い傾向にあるが、女子学生を獲得する施策はあるか。 ○　女子学生の確保という点では、女性教員・女性研究者を増加させることも一つの施策である。また、最近の学生はSDGsへの関心も高い。これらに対する取り組みを、受験生と保護者に対してアピールしていくことが重要である。	第109回 （令和4年6月3日）	（経営協議会での学内委員の回答） ◇　山口大学においても文系学部への女子の志願者数は多いが、理系の志願者数はそれほど多くないため、施策が必要であると認識している。アドミッションセンターでも検討を進めていきたい。 ◇　現状を分析調査し、いただいたご意見を参考にしながら、入学志願者確保に取り組んでいきたい。
			○大学入学共通テストについては、大学入学希望者に求められる共通の学力として、高等学校教育を通じて育まれる学力のうち「知識・技能」を十分有しているかの評価も行いつつ、思考力・判断力・表現力等を中心に評価する問題形式に変わってきている。高等学校学習指導要領を含め高等学校における学習状況を把握し、受験生（高校生）を適切に評価できるような個別学力検査等の対応を図っていきたい。 ○女子学生を獲得する施策として「女子枠」を設けることは、文部科学省も理工学系の入試で女子学生を増やす工夫をするよう求めている背景もあり、必要性は感じている。一方、属性的な募集枠を設けることは、公平性の観点からの入学者選抜を意識しなければならないことから、受験関係者等ステークホルダーの意見を配慮しながら検討をしたい。また、SDGs貢献への取組に関しては、オープンキャンパスでの紹介、高校への出前講義の実施、「山口大学SDGs報告書」や「明日の山口大学ビジョン2030」の広報など、引き続き様々な機会・媒体を通じて、受験生等へのアピールを強化していきたい。

経営協議会学外委員からのご意見に対する取組状況（経営協議会分科会）

令和4年度

分野	学外委員からのご意見等	ご意見を頂いた経営協議会	取　組　状　況
教　育	今後の大学における人材育成について、学生が自ら考え学ぶ、自主・自立型の教育をすること、また、地域に合った人材を地元企業を活用して育成して欲しい。	第109回 （令和4年6月3日）	令和4年度に大学教育再生戦略推進費 地域活性化人材育成事業～SPARC～に申請・採択された。これは、大学と地域が一体となり、より高度な地域連携と教育改革を進める事業であり、大学リーグやまぐちに参加している県内自治体・企業等と協力して、地域社会が期待する能力を持った学生の育成を行う取組を進めている。 また、YFL育成プログラムを発展させたYu-DXプログラムの構築にも取り組んでおり、そこでは、地域の企業や自治体と連携した、プロジェクト型課題解決学習（PBL）のテーマを設定し、地域社会との連携に取り組んでいる。
	県内にある国立大学の役割として、各専門分野の基礎教育をしっかり行い、イノベーションにつながる人材育成を行って欲しい。	第110回 （令和4年9月14日）	SPARCでの取組に伴い、学部等連携教育課程であるひと・まち共創学環(仮称)の設置を進めており、新たな教育組織では基礎教育の充実とともに学内の教育リソースを活用した分野融合のカリキュラムの構築を考えている。また、DX教育の担当教員を新規雇用し、地域の課題解決及びイノベーションの創出ができる人材を育成するための「Yu-DXプログラム」を構築することで、DXによる課題解決ができる人材育成を進めている。
	令和4年度入学者のうち、山口県出身者の割合が26.5%とあるが、県内進学率を上げる取り組みを行っているか。	第111回 （令和4年12月22日）	県内進学率の上昇及び多様な学生を受け入れるために、専門高校（商業科）に訪問し、進路指導担当教諭とカリキュラム及び進路状況を確認し、学部入試の親和性並びに課題の把握を行った。来年度以降も引き続き、農学系、工学系の専門高校にも訪問調査を実施していき、入学者選抜の改善を行っていく。

分野	学外委員からのご意見等	ご意見を頂いた 経営協議会	取　組　状　況
研　究	○山口大学ビジョンについて：これまで山口大学では様々な取組がなされてきたが、基盤があってその中の強かった部分を更に強化するとか、そうでなかった部分の活性化といった点（戦略の違い）も明らかにしていただければ分かりやすい。 ○「研究拠点・研究プロジェクト等の位置づけ」について：実際の研究プロジェクトは全てがステージ1から4という順番になるとは限らないし、これを辿るのは大変なことであり時間もかかる。戦略的には、ある種のFS的な種を撒くことも必要で、回し方でフレキシブルにできるようにしたほうがよい。	第109回 （令和4年6月3日）	○山口大学ビジョンには大学の理念・使命が書かれている。山口大学憲章のもと、2008年にビジョンを最初に策定し、次に2015年に改訂し、本年度の2030年ビジョンに至っている。ダイバーシティに関しては先見の明があって2015年から取り組んできたが、今回のビジョンではもっと広い意味のダイバーシティの概念を定めている。柱と言うよりも横串を刺すようなものである。 ○山口大学ビジョン・「研究」の重点戦略2（大学研究推進機構アクションプラン（2022）Ⅱ）の「世界をリードする研究領域の創造」では、例えば時間学研究所のこれまでのストックを活かし、そのユニークな研究をもっと社会から見える形で時代を先取りしたものとして展開していきたいと考えている。 ○「研究拠点」について、ステージ1から4というボトムアップ型だけでなく、令和3年度から新たに「トップダウン型」の研究拠点を認定した。中期計画においても、令和9年度までに「トップダウン型産学公連携研究拠点」を5拠点に増加させることとしている。
	コアファシリティ事業が丸2年経過して、これまでの成果やハードルが高くなったと感じることなどあればお聞かせいただきたい。 技術職員のスキルアップについては、説明のあったように必ずしも山口大学に限らず、他大学と連携することや他大学の状況を見に行くなど、横のつながりを活用することが大事だと思う。	第111回 （令和4年12月22日）	総合技術部という技術職員の全学化自体、ハードルが高いものであったが、コアファシリティ事業に西日本で唯一採択されたことでスムーズに進めることができたと考えている。 これから共用機器の利用料金の改定などに踏み込もうとしている。一番大きな効果があったと考えているのは、機器の精査による二重投資の防止による、最先端・ハイグレードの機器を導入することである。 また、技術職員にマイスタートラックを新設し、職階を5段階に増やしてスキルアップできるようにしている。技術職員のスキルアップについては、東京工業大学のTCカレッジに参画して全国的に協同でスキルを磨き合っている。

<table>
<tr><th>分野</th><th>学外委員からのご意見等</th><th>ご意見を頂いた
経営協議会</th><th>取　組　状　況</th></tr>
<tr><td rowspan="3">地域連携</td><td>山口学研究センターを活性化するためには、情報発信が重要である。ステークホルダーにしっかり伝わってないのではないか。情報を分かりやすく説明することが重要である。
また、研究するだけで終わらせるのではなく、成果をどう使っていくか、地域に還元するかが大切である。研究成果の発信や研究シーズとニーズのマッチングを行うためには、専門のコーディネーターが必要である。</td><td>第109回
（令和4年6月3日）</td><td>地域未来創生センターの機能強化では、学内の様々な情報を把握し、情報発信することとしているため、山口学研究プロジェクトの成果についても情報発信を強化する予定である。ホームページのほか、昨年本学が開設したツイッターによる情報発信や、一般社団法人を構成する山口県立大学、山口学芸大学の研究者の参画等による活性化を検討している。また、研究成果の地域への還元に関して、地域未来創生センターのコーディネーターの役割とする。</td></tr>
<tr><td>地域連携プラットフォームのリーダーシップは自治体がとるのか。大学の役割が何であるか、モデル事業を実施してみないとわからないのではないか。</td><td>第110回
（令和4年9月14日）</td><td rowspan="2">中長期的には自治体がリーダーシップをとるよう進めることを考えている。大学の役割としては、学生を主とする教育リソースと多様な分野の研究者による研究リソースを通じた地域貢献であるという考えの下、可能な限りニーズに対応したいと考えている。
現在、山口市PFでは、中学校の部活動の地域移行と、クリスマス市を中心とするにぎわい創出に取り組むワーキンググループを立ち上げる予定、宇部市PFでは、健康増進に関するワーキンググループを立ち上げる予定としており、大学が協力できることを見極めながら進めていくこととしている。</td></tr>
<tr><td>「やまぐち地域共創プラットフォーム」の中学校の部活動の地域移行では、教員が忙しいということより子供たちを豊かにすることが大事である。部活動のレベルはどのようなレベルが求められているか見極めることが大切である。
また、地域連携プラットフォームに、学生リソースをどのようにかかわらせるかが重要と考える。</td><td>第111回
（令和4年12月22日）</td></tr>
</table>

分野	学外委員からのご意見等	ご意見を頂いた 経営協議会	取　組　状　況
財政	オリジナル財務諸表について 〇大学全体のことを数値化するのではなく部門別にするなど、とらえやすい分析をしたらどうか。 〇この財務諸表を見た人たちがミスリードしないような丁寧な説明が大事。また損益計算書だけでなく貸借対照表もセットにしなければ、正確な分析は難しいだろう。 〇この財務諸表を他大学と比較し経営分析に役立てた方が良い。 〇現状とオリジナル財務諸表との結果には大きく開きがあるが実態はどちらになるのだろうか。 〇この財務諸表の作成が、過度な事務の負担とならないような工夫をした方がよい。	第110回 （令和4年9月14日）	山口大学レポート（令和4年12月発行）に、このオリジナル財務諸表を掲載した。掲載にあたっては、左記のご意見を踏まえ、作成の背景や目的、数値の捉え方、企業会計に近づけたことで分かったことや現状との差異が生じる理由などについて、説明書きを加えてわかりやすくした。 今後は他大学との比較分析を積み上げ、経営分析に活用していきたい。